

農福連携による障がい者の社会参加を支援 する小型ストレスコーピング機器の開発

北田 真悟

富山県立大学 電子・情報工学科

November 22, 2022

背景

アンビエント社会とは、人間の周りに存在するコンピュータが自らの判断で行動を起こし、働きかけようとする社会であり、情報技術が生活に溶け込みつつある。

IoT の活用という面において、障がい関連団体から要望が届く事例が存在し、意思疎通を図る機能の実装などの意見が挙げられる。

目的

- ウェアラブル装置からのデータをもとに、ストレス測定を行う。
- 障がい者の労働の支援をする。

3D プリンター

装置の作成には、3D プリンターを使用する．現在は、3D プリンターが故障しているので、発注した部品で修理を行う予定である．

可動部分の概要

首型を採用したことによる圧迫のリスクについて、可動部分を増やすことを考えている．現在の可動部分は、調整を行い以下のようになっている．

この可動部分は、輪の部分で回っているようにになっている．

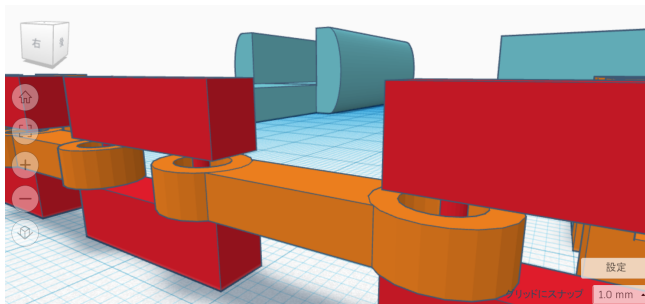


図 1: 可動部分

装着方法

本研究では、農地における作業が想定されるため、首型の装置を作成する。想定は、図2のような装着方法を想定している。



図 2: 首型の想定

装着方法

カメラについて、作業中のずれや落下を防ぐために、ケースにカメラを固定させる箇所を作成した。また、raspberry pi の装着部分を変更した。

改善すべき点

- GSR センサの装着位置
- 首周りの違和感の軽減

まとめ

- ケースの図面を改善した.
- 装置の作成に必要な部品の確認をした.

課題

- ① 図面を改良して 3D プリンターを直す.
- ② 卒論を進める.